

2. 指標設定

成果指標	指標名	養護老人ホーム入所者数	目標年度	H27	指標の設定理由			
	数値	55人			総合計画/後期基本計画において、基本施策(1-1-3)の高齢者や障がい者がいきいきと生活できるよう支援する			
活動指標	指標	a	入所施設数	b		c		d
	数値	目標	6ヶ所	目標		目標		目標

3. 実績（上段・実績/下段・達成率）

成果指標名	単位	H20	H21	H22
養護老人ホーム入所者数	人	53.00 人	52.00 人	51.00 人
		96.4 %	94.5 %	92.7 %

活動指標名	単位	H20	H21	H22
a	入所施設数	6ヶ所 100.0 %	6ヶ所 100.0 %	6ヶ所 100.0 %
b				
c				
d				

4. 課題と対応

課題
在宅における虐待・困難ケースの緊急入所施設としての役割を担っているが、件数の増大がある 入所者の介護重度化が目立つ
対応（改善点等）
市内養護老人ホーム（常楽荘、三国寮）との連携会議の開催

5. 事業費・・・H20～H22（決算額）、H23（予算現額）

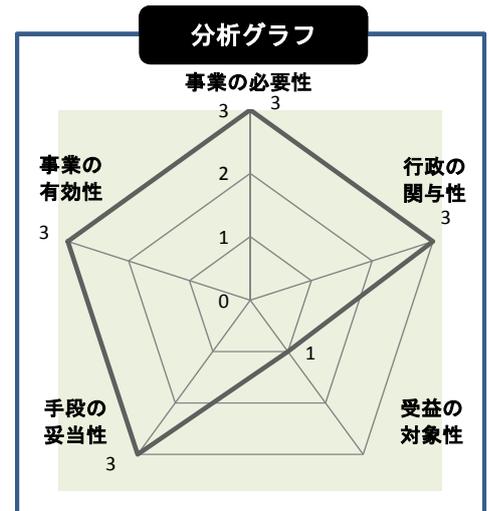
決算額（千円）	H20	H21	H22	H23	
	うち経常経費	31,228	108,184	94,825	102,117
	25,513	92,130	94,825	91,317	
財源内訳	国費				
	県費				
	市債				
	その他	5,715	16,054	13,261	10,800
	一般財源	25,513	92,130	81,564	91,317
うち経常	25,513	92,130	81,564	91,317	
事業費に係る人件費	5,349	5,376	5,037	5,160	

6. H24年度予算の方向性

方向性
前年並
理由
常時52～53名程度の入所者で推移している

7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3 老人福祉法により規定されている事業
② 行政の関与性	責任領域の精査	3 老人福祉法により規定されている事業
③ 受益の対象性	事業対象の確認	1 高齢の要保護者の事業である
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	3 市内養護老人ホーム（常楽荘、三国寮）の役割は大きいですが、状態像で市外も必要
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	3 平成19年度以降は概ね52～53名程度で推移



8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	今後とも的確な対応を図ること